

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400202		
法人名	社会福祉法人 新		
事業所名	グループホーム むろみ		
所在地	福岡市早良区室見5丁目10-34		
自己評価作成日	平成30年4月30日	評価結果確定日	平成30年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成30年5月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

地下鉄室見駅から徒歩3分と近く、交通アクセスが良いことからお気軽にお立ち寄りできます。また、閑静な住宅街の一角で、室見川も近く、お散歩の際には利用者様に身近に四季を感じていただける恵まれた環境にあります。当法人ではかねてから特別養護老人ホームを運営しており、認知症をはじめとする介護に関する豊富な知識や技術を活かしたサービスを提供いたしております。また、協力医療機関との連携により手厚い医療が受けられることも利用者様やご家族に喜ばれております。当法人は、平成15年5月に開設した特別養護老人ホームの時代から「育ててくれた地域への恩返し」をモットーに運営をしております。地域密着型サービスである当グループホームでは、住み慣れた地域で安心して生活ができて、どなたでも気軽に立ち寄ることができる場所やサービスの提供を通して、認知症サポーターの資格を生かし、地域の方々やご家族、子供へ認知症の理解を深めていただけるよう、積極的に講座を開催し、更なる「地域への恩返し」を目指して運営してまいります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームむろみ」は平成26年に開設された、1階に小規模多機能、2階、3階に2ユニットがある複合型施設である。交通の便もよく静かな住宅街の一角に位置し、近くには室見川が流れ、白魚のとりつけを見たり、川沿いの桜並木を散歩したりと季節の移ろいが感じられる。法人は平成15年に特別養護老人ホームを開設しており、法人内の餅つき、夏祭りなどを老人ホームで一緒に行い、焼き鳥、綿菓子等の出店をして、地域の方たちにも楽しんで頂いた。室見校区の子ども会の話し合いの場所として事業所を利用してもらい、情報をいただき、子ども会の行事に参加している。高齢者と子どものつながりを充実させるため、グループホーム、老人ホームと児童保育の場所のある施設を設立する予定であり、建設にあたり住民への説明会を行った。認知症サポーター養成研修を受け、室見公民館で講座なども実施しており、今後もさらに地域との連携を深め「地域への恩返し」をモットーに今後も益々の発展が期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設し4年目を迎え、日々実施しやすい理念の作成を検討していたが、スタッフより現在の理念を大切にしていき、更に地域に愛し、愛されるよう地域との交流を増やす為に、公民館であるサロンなどに参加している。笑顔で接することや利用者に四季を感じていただけるように外出も行っている。	開設時からあるGH独自理念の変更も検討したが、職員の馴染みもあり、改めて現在の理念でいこうという結果になった。ホールの掲示や、チラシにも掲載しており、理念に立ち返ったケアを意識している。「～地域に愛し愛されること」とあるように、地域との関わりを一番にあげており、関係も良好に築いてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、地域で行われる行事には積極的に参加するようにしており、施設内で行われる年に2回の避難訓練なども地域の方に参加していただいて実施している。夏祭りや餅つき会、敬老会、子供会のハロウィンイベントに参加している。2月に室見校区の民生委員に向けて、認知症サポーター養成講座を開催している。	ハロウィンをきっかけに子供会との交流も生まれ、昨年から施設の会議室を開放して、話し合いの場に使ってもらうようになった。町内会にも入っており、毎年来訪もあり、地域情報や行事のお誘いも頂いている。地域行事には利用者も一緒に行っており、昨年は職員が町内会運動会に参加して皆で応援にも行った。事業所の催しに地域方をお招きすることもあり、自治会長を通じて案内もしている。認知症サポーター講師資格を職員が取得し、講座も開催できるようになった。	地域との関係は良好に築いてきているが、今回の認知症サポーター養成講座をきっかけに、地域への認知症啓もう活動が更に活発に進んでいく事にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	室見校区、民生委員の会長より新に民生委員になられた方々に向けての、認知症サポーター養成講座を開催してほしいとの声があり、2月20日に室見公民館にて講座を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月分の業務実績と業務予定を報告し、これまでの取り組みの中から事例を挙げて意見を伺い、評価を行っている。他事業所の運営推進会議に昨年は2度、今年は1度参加し、情報交換行っている。	併設の小規模と合同で、1Fホールを使って開催しており、地域代表、社協、地域包括、他事業所などの担当が参加されている。家族は全員に案内し、1、2名が参加する。他事業所小規模とは相互参加の協力もしい、いい点を取り入れたりもしている。行事予定や実績、研修報告なども写真入りで詳細に報告しており、質問や意見も頂いている。議事録は玄関に閲覧用ファイルを設置している。	なかなか参加されていない家族の参加を促す取り組みとして、時には開催曜日を変更したり、行事との同日開催をしたりと、柔軟な運営がなされていく事にも期待したい。議事録も閲覧のみでは伝わりにくいので、掲示板や郵送配布などの方式も検討されてはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を利用して事業所の実情を知っていただき、意見を伺っている。また、その都度分からないことがあれば連絡をして密にコミュニケーションをとっている。	開設当初は運営推進会議にも行政職員の参加はあったが、ここ数年はない。管理者が新事業所の開設準備も行っており、その関係で行政とのやり取りは最近が多かった。昨年からは認知症サポーター養成の講師をしており、区の介護保険課を通して依頼を受けて、室見公民館で民生委員対象の講座を実施した。	市町村とも関係を深めていききっかけづくりとして、広報誌「むろみだより」や運営推進会議の議事録の送付も案内と一緒に行ってはどうだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	7月と3月に身体拘束の廃止に関する職員への内部研修を行っている。現在のところ、身体拘束を行っている利用者はいない。	日中の玄関施錠もなく、出入りも自由にできるが、不穏な際は職員見守りに対応しており、今までにも離設行為などはなかった。夜間のみ、必要な方に対してだけ、センサー利用はあるが、今までにも拘束行為はなかった。昨年からは身体拘束廃止委員会を組織し、研修も実施している。	

H30.5自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6月と2月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っており、虐待防止に関しては、外部研修に参加している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っている。現在のところ、該当者はいない。	これまでも制度利用者はいなかった。管理者が内部研修によって職員への周知を行っており、一般的な理解はしている。契約時にも家族に制度説明の資料を基にして説明も行っている。内部研修時も書籍を借りるなどして伝達している。現在関係者に貢献サービスをされている方もおり、必要時には相談もできる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はあらかじめ時間に余裕を持って対応しており、十分な説明をして納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(食事会)の検討を行い、ご家族への聞き取り行うも、全家族共に日程が合わず、開催できていない状態である。現在も、ご家族の面会は多く、面会時に家族の要望を聞き取るようにしている。また、運営推進会議への参加を促すも、集まりが悪い状況ではあるが、参加された場合は、意見を聴取して運営に反映している。	家族参加行事の要望があり、昨年動物園に行った際に家族にも案内して一緒に楽しんできた。面会時に意見を聞くことが多く、面会は8割方は月1回以上の訪問がある。疎遠になっている方には、電話や3ヶ月発行の「むろみだより」で担当職員から個別の状況を伝えている。一昨年からおたより発行を始めたが、家族とのコミュニケーションのきっかけにもなり喜ばれている。	家族参加行事も好評だったので、今後も増やしていきたいと考えている。家族会の実施も検討中なので、実現に期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月フロア会議を開催し、職員の意見を聴取する機会を設けている。定期的に個別の面談も行っている。	毎月のフロア会議は全体で話した後ユニットで改めて分かれて行う。原則全社員は全員が参加する。ユニット単独の会議もあり、その際にパート職員含めて伝達や意見も聞いている。会議で、職員の意見からケアの開始時間を見直して、朝の人員配置を手厚くする改善につながった。備品の要望にも応えてもらっている。何かある時には随時管理者と個別に相談することもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月フロア会議を開催し、職員の意見を聴取する機会を設けている。定期的に個別の面談も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接の際は、年齢や性別に関係なく平等に判断している。また、働いている職員に対しても面談を行い、長所や短所を見極めたアドバイスをおくるなどの配慮をしている。	年齢層は20～60歳代まで幅広く、男女比は4:6程度である。研修案内は管理者を通じて受け取り、指示で参加したり、希望で行くこともできる。職員で委員を定め、行事の企画やレクなど持ち回りで、各担当が責任をもって実行しており、自主性も出来てきた。職員もレクや歌や、お菓子作りなど得意なことに取り組んで能力を生かしている。休憩時間もメリハリをもって確保され、外出することもできる。資格取得支援も法人から補助されている。	昨年は外部研修への参加機会が少なかったため、今後は様々な研修への参加がなされていくことに期待したい。

H30.5自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	6月と2月に高齢者の人権擁護に関する職員への内部研修を行っている。現在のところ、該当者はいない。	外部研修の参加はなかったが、社協から借りた書籍を利用しての人権学習を行っている。毎年年2回程度の内部研修を実施し、昨年は認知症実践者研修の受講があり、内部での伝達も行った。	今後は外部講師による出前講座や、人権関連団体を活用した研修やDVDを利用した動画研修など、負担にならない形での研修企画などがなされることにも期待したい
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って内部研修を行い、その都度、外部研修への参加も促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会「いとの会」において行われている交流会に参加している。また、同法人内で行われる行事や交流会に参加して交流を深めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居した際にグループホームでの生活に対する要望や質問を伺っている。また、馴染みの関係を築けるように毎日コミュニケーションをとっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の前に面談を行っており、その際に要望や質問を伺っている。また、契約の際にも再度確認するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをとることでニーズを見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「お互いが自然体で接し合える」という理念をもとに関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	こまめな連絡を行い、病院受診での外出の際や行事の際などご家族が関わることができるときには可能な限り参加していただけるように働きかけている。		

H30.5自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居に関する説明を行う際に、これまでの生活環境により近づけることができるように自宅にあるものを居室に持ってきてもらえるように説明を行っている。	入居前から行っていた馴染みのある食堂に、他の利用者も連れて一緒に行ったり、行きつけのスーパーに買い物をしに連れて行く方もおり、個別ケアで対応することも多い。地域行事に参加した時に声をかけられたりすることもあった。家族以外にも知人や友人の来訪機会も多い。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の自由を尊重しつつも、レクリエーションや行事への参加は全員に声掛けするようにしている。また、利用者同士でのコミュニケーションを円滑に取れるように職員が間に入って会話するようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	取り組む準備はできているが、現在のところ実績はない。退所された方の家族から、別の親族の方の利用相談を受け、現在入居されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所した際にアセスメントをとり、意向の確認をしている。	契約時には管理者が自宅を訪問し、アセスメントやフェースシートを取得している。聞き取った内容はカンファレンスで職員とも共有し、随時改善につなげている。アセスメントは半年に1回更新し、見直しも行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から話を聞いて生活歴の把握に努めている。また、医療機関や介護施設からの情報提供からも把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し個人記録をつけることで一日の過ごし方や心身状態などの現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の説明の際に、ご家族や本人からの質問や意見を伺い、本人の状態に変化があった際は家族に連絡し、その都度報告している。また、おおむね3ヶ月に1度モニタリングを実施して介護計画に反映させるようにしている。	担当者は4名程度を受け持ちモニタリングは3ヶ月ごとに行っている。プラン目標ごとの日々のモニタリングチェックシートがあり、職員も全員がプラン内容を理解し、日々の実行を記録している。担当者会議も医師や看護師、薬剤師、歯科衛生士などの専門家に来てもらって幅広い意見をもらっている。	

H30.5自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録をもとにフロア会議でモニタリングを行い、その際にケアの方法についても話し合っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福岡市外に住まわれていた方でも住所を実施の住所に変更して入居していただけるようアドバイスをし、実施に入居していただいた。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌の情報をもとに地域資源の活用を検討しているが、現在のところ、これといった実績はない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の契約の際に、かかりつけ医を確認しており、急変が起きた際の対応についても説明をして納得を得ている。また、通院介助や住診にて利用者の健康管理をしている。	入居時に母体病院でもある、外科をかかりつけ医として変えることを説明して同意を得ており、主治医とされる方が多い。他科受診の際も家族には連絡せず事業所から通院介助を行っている。通院時には必ず変更点などを家族にも案内している。看護職員も在籍しており日々健康管理がなされており、医療連携加算もとっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定時の申し送りの際に看護師への報告を行っており、異常が見られた際も適宜報告を行い、適切に対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合には、適宜、医師に状態を尋ねることで現状を把握している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際に、看取り介護についての説明を行い意向の確認を行っているが、入所当時には対象の方がおられないことから、実際にターミナルの状態になられた時に再度意向を確認する旨を伝えている。実績あり。	今までに看取った事例も多く、希望があれば最期まで支援する考えである。提携医である母体病院も24時間対応しており、夜間や緊急時も駆けつけてもらっている。家族の要望も聞いて看取りプランも立てている。ターミナルケアに関しての勉強会も毎年定期的実施している。職員も経験を積んで看取りにも対応できるようになってきた。	

H30.5自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	6月と11月に事故発生時の研修を行っている。また、10月には応急救護の研修を法人内で行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	5月と12月に地域の住民と共に避難訓練を実施し、施設で火災や災害が起こった時の対応を確認した。	併設の小規模多機能と合同で年2回防災訓練を行い、2回とも地域の方に参加してもらい、うち1回は消防署にも立ち会ってもらった。基本は夜間想定で行っている。訓練時は近隣への案内もしている。県の要請で災害マニュアルを作成し、室見川が氾濫した際の水害想定での避難方法について定めた。水・食料・コンロなどの備蓄品も管理している。法人の特養とともに、AEDや救急救命訓練も受けており、地域の防災講座にも参加した。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係を築けるように方言を交えながらも人格や誇りを傷つけないように配慮した声掛けを行っている。	相手を尊重する中でも丁寧になりすぎないように、関係を図りながら言葉遣いには特に注意を払っている。意思疎通の難しい方に対しても敬意を払い、指示にならず羞恥心にも配慮した対応を心がけている。職員への注意もその都度その場で行うようにしている。接遇やマナー、身だしなみに関しても内部研修によって指導している。写真の利用に関しても入所時に書面で同意を頂いている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事手伝いや、レクリエーションや体操などの活動において強制的ではなく自己決定できるように形でお誘いしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	メリハリのある生活や生活リズムを大切にしながらも、基本的には自由に過ごしていただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や臥床時の更衣の際は、可能な限りご自身で衣類を選んでいただいている。また、外出の際は、お化粧をして外出着で出かけている。好みに合わせてマニキュアを塗っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜、食事レクリエーションを行っている。その際、一緒に準備をして料理をしている。日々の食事に関しては、主に片づけを一緒にしていただいている。	3食とも業者による調理済み食材の配食があり、盛り付け、炊飯のみ事業所内で行っている。利用者には食器洗いや配下膳のみ、出来る方に手伝ってもらっている。おやつレクで皆で調理したり、外食レクで外に食べに行くこともある。職員に元パティシエもあり、お菓子作りでは活躍している。外食は個別でも全体でも行っている。メニューや食事形態の個別対応も日々されている。職員も同じものを食べられるが、時間は個別にとっている。	

H30.5自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携し、食事摂取量やカロリーの調整を行っている。また、可能な限り、自力摂取出来るように必要な器具は、その都度準備している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケ内の状態観察は、口腔ケアの際に毎回行っている。その他ほぼ全員が居宅療養管理指導にて毎週1回歯科衛生士が口腔ケアを行い、口腔内の状態を確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	モニタリングの際に排泄の場所や物品の検討をして、可能な限り自分の力で排泄が出来るように支援している。	ユニットごとに全員分を24時間管理できる排泄チェック表があり、管理している。リハパン利用だった方が、声掛けによって失敗もなくなり、布パンツ利用でトイレ排泄が出来るようになった。フロア内でのカンファレンスや申し送りや改善点を話し合っており、逐次提案につなげている。自分で出来ることは自分でしてもらい、極力トイレ排泄してもらうようにしており、危険のない限り夜間でもトイレにお連れしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便パターンを把握する為に排泄チェック表に記録を残しており、便秘傾向にある方は運動を促し下剤でも調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴をする機会を設けており、現在のところ利用者の希望は聞かれていない為、こちらの都合で行っている。	浴槽は三方向介助出来る配置で、可動式ベンチが横に置かれ、三方に手すりもつけられており、移乗もしやすい。季節の行事浴でゆずや、菖蒲などをいれることもある。以前は拒否の強い方もいたが、近頃は信頼関係も出来てスムーズに入浴している。シャワーチェアなども職員の要望で必要時に準備している。脱衣場とトイレも繋がっており、急な利用にも対応できる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症状で就寝のタイミングが分からない方以外は、自分のタイミングで就寝していただいている。また、安心して眠っていただけるように自宅での環境に近い畳を使用していただいている方もおられる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、内容に変更があった場合や疑問に思ったことなどは随時確認をとっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室見川が近いことから、天気の良い日は散歩に出かけて四季を感じていただき、気分転換をしていただいている。利用者の趣味を活かせるレクリエーションや毎月食レクリエーションを企画し、取り組んでいる。		



H30.5自己・外部評価表(GHむろみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「馴染みの定食屋に行きたい」、「馴染みスーパーに買い物に行きたい」などの希望があり、希望を叶えられるよう支援している。通常、外出したいとの希望があった場合は、室見川や近所の公園に外出している。	個別の外出希望にも出来る範囲で対応しており、定食屋やスーパーには継続して外出している。近隣の公園に花見に行ったり、室見川沿いを散策したりと、気候のいい時には近隣の外出を日常的に楽しんでいる。動物園に家族と一緒にいたり、ショッピングモールに行ったりと年に5、6回程度は企画している。春の桜見などは様々な場所で何度も楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等の手紙のやり取りをされてある方がおられ、施設に手紙が届いた場合は、利用者へお渡しし、利用者が手紙を書かれた後は、一緒に郵便局へ手紙を持って行くなど、対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に、利用者の方が気持ちよく過ごしていただけるように毎日清掃しており、壁の飾りを工夫することで季節感を感じていただけるよう配慮する。	その月の係担当を中心に、利用者と一緒に飾りつけを企画し、季節が感じられるものを飾っている。写真で行事の様子にもぎやかに貼られ、記憶のきっかけにもなっている。フローリング調のビニルマットで、掃除も行き届き清潔にされており、換気はこまめにして空気を入れ替えている。ホールは40畳ほどの広さがあり、かなりゆったりとした造りである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6人がけのテーブルを2卓と3人がけのソファを配置しており、日々の様子を観察して気の合う方同士に座っていただけるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の契約の際に思い思いの物を持っていていただける旨を説明しており、実際に様々なものを持ってきていただいている。	好きな人形や使い慣れた家具類などは自由に持ち込むことが出来、テレビも置ける。介護ベッドとタンスが備え付けられており、希望があれば畳を敷いて布団で休むこともできる。日当たりも良く、清掃も行き届いており、シンプルに管理されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように張り紙をしたり、利用者の動線に配慮して家具を配置している。		